

明治村警察資料館（旧登米警察署庁舎）

1889 年に建設された旧登米警察署の建物は、79 年間使用されていました。この期間、農村部の警察業務と消防業務が統合されていたため、この建物は警察署と消防署の両方の役割を果たしていました。1987 年に修復され、警察資料館として一般公開され、警察と消防の歴史的な資料が展示されています。1988 年には宮城県の有形文化財に指定され、1926 年に建てられた高さ 20 メートルの消防監視塔（火の見櫓）は、2015 年に宮城県の文化財に指定されました。

警察署は、和風と洋風を融合させた設計で知られる建築家山添喜三郎（1843–1923）によって建設されました。二階建ての木造建物は、板張りの外壁、白く塗られた屋根瓦、彫刻された柱、そして入口上にあるバルコニーが特徴です。修復過程で、明治時代（1868–1912）の取り調べ室や拘置所の基礎が発見され、これらの部屋が再建されました。現在、これらの再建された部屋は、当時の法執行施設としての建築の貴重な例を提供しています。

展示物は、公共の安全がどのように維持されていたか、明治時代の犯罪者たちの活動や法との関わりについての洞察を提供しています。刺青の提供する者や登録されていない外国人の宿泊させる者といった地域の犯罪のイラストが、警察の制服やサーベルと共に展示されています。ロビーでは、訪問者が白い警察用バイクや 1980 年代のニッサン・スカイラインのパトカーで写真を撮ることができます。また、警察関連のグッズを販売する小さなギフトショップもあります。